

「耳」からフレイルについて学ぶ 聞こえにくくなった人への話し方のポイントも

9月19日(金)に尾道市向東地区公衛協で、9月20日(土)に廿日市市大野公衛協で、耳の健康の学習会を開催しました。学習会には尾道市会場で28人、廿日市市大野会場で47人が参加しまし

た。講師は、広島国際大学総合リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻佐藤良樹先生で、聞こえに関する基礎知識や、補聴器の選び方や使い方などについて、お話しいただきました。

まず、耳の健康チェックリストを用いて、13項目についてセルフチェックし、簡単に難聴の初期サインをチェックしました。難聴には、「伝音難聴」と「感音難聴」の2種類があり、補聴手段の対応が異なります。「感音難聴」の場合、テレビのボリュームを上げたり、大きい声で話しかけても十分に聞こえていないことなどを学びました。

聞こえにくくなつてから補聴器を利用する際の流れについては、参加者の関心が高く、一度の調整だけでなく、その人に合うように何度も調整することや、購入後のメンテナンスサービスがあることなどを知って、安心していました。また、身ぶり手ぶりをつけて話す、ゆっくり話すなど、聞こえにくくなった人への話し方のポイントなども、教えていただきました。



熱心に講演を聞く参加者



での講師派遣が可能ですので、是非ご検討ください。
(地域活動支援センター)

AIとやさしさで、乳がん検診を次のステージへ 新たなマンモグラフィ装置を導入

健康クリニックでは、このたび富士フイルムメディカル製のマンモグラフィ装置「AMULET SOPHINITY」を導入しました。

この装置は、最新鋭のAI技術を活用した撮影支援機能を搭載しており、より高精度かつ効率的な乳がん検診を可能にしています。今回は、「AMULET SOPHINITY」の機能の一部を紹介します。

ポジショニング支援機能では、AIが乳房の形状や体位を解析し、最適な撮影角度や圧迫位置をガイドすることで検査時間を短縮するなど、受診者の負担を軽減しました。また、AIが撮影後に画像品質を自動で評価し、必要に応じて再撮影を提案するほか、過去画像との自動位置合わせや比較にも対応しており、検査精度の向上も図られています。

検査時間の短縮

痛み・心理的負担の軽減

検査精度の向上



乳房への圧迫についても、AIが圧迫圧を最適化し、痛みを抑えながら診断に必要な画質を確保します。標準搭載の「なごむね」機能(圧迫自動減圧制御)により、圧迫完了後に乳房の厚みが変わらない範囲で圧力を自動的に軽減し、受診者の痛みや心理的負担も大幅に軽減されます。

撮影台は薄型・小型化されており、サイドの膨らみも抑えることで、受診者のポジショニング時のストレスを大幅に軽減しました。

操作ワークステーションは、AIが提案する撮影条件や解析結果を一画面で確認できるなど、操作者にとっても使いやすく設計されています。

このように、「AMULET SOPHINITY」は、乳がん検診の質を次世代レベルへと引き上げてくれる装置となっています。ぜひ、年に1度は健康クリニックで健康診断を受診してみませんか。

(診療放射線課 谷崎 典史)



AI技術により検査制度が向上するほか、検査時間の短縮、受診者の負担の軽減にもつながる



環境生活センターでは、飲料水、環境水や土壌、食品類、石綿などの分析や、貯水槽の

環境協の
環境生活
センター
(46)品質保証課

基幹システム更新

情報共有の見える化

可欠であり、それらを支えるために「基幹システム」の活用が重要となります。皆さまの周りにも活用している独自のシステムがあるのではないのでしょうか。

当センターでは、2026年度以降の導入を目指して新システム導入プロジェクトを進行しており、品質保証課はプロジェクトの事務局として参画していま

や観測環境などの観測値を紙に記録したのち、システムへ情報の入力を行っていました。が、これからは検体ごとに二次元コードを印刷したラベルを貼付し、

今後とも正確かつ迅速な対応を通じ、皆さまに選ばれるセンターとなるよう励んでまいります。
(品質保証課 三輪 千尋)

管理状況検査、作業環境測定など、多岐にわたる業務を行っています。これらの業務にはこれまで以上に積み上げてきた専門知識や技術が不

長年使用してきたシステムには、時代の変化への対応力低下やシステム保守費用の増加、セキュリティ面の不安などの課題が生じてきます。そのため

プロジェクトについて一部の紹介とはなりますが、二次元コードを利用した進捗管理の導入を予定しています。これまででは担当者が試料

コード情報を読み取ることでシステム内の情報を自動で更新させます。これにより転記ミスの防止や属人管理からシステム管理へと移行することで、情報共有の見える化が期待されます。

また、成績書の電子納品にも取り組んでおり、郵送よりも迅速かつ確実に、お客様の元へ結果をお届けできるサービスの提供を目指しています。